

視界不良につき

関西大学・社会安全学部 小澤 守

スマートフォンが巷に行き渡り、大人も子供もみんな俗に言うスマホを使って、メールやネット検索、音楽聴取、ゲームを楽しむようになっている。通勤電車の中では、かつては特に夜には網棚にスポーツ新聞などが大量においてあって、プロ野球の最頂の球団の記事を見たいと思えば、いくらでも読むことができた。また4月早々には明らかに新入社員と思しき真新しいスーツ姿の青年たちが挙って見様見真似に経済紙を読んでいたものだが、昨今では、電車内での新聞閲覧状況は極めて低調で、新聞社が売れ行きの不良なることを嘆くのも無理がない。乗客の手元には必ずといっていいほどスマホがあり、丁寧に数えたわけではないが、電車内の9割以上がスマホに勤しんでいるように思う。ネット社会である所以である。かつてウォークマンでイヤホンから音がダダ漏れの若者たちが大声で話していたが、最近ではみなスマホに替わり、直接話さなくてもメールやラインで会話ができるのか、うるさい手合いさえにも出会わない。それはそれとして時代の状況なのだろうが、果たしてそれでいいのか、というのが今回の主題である。

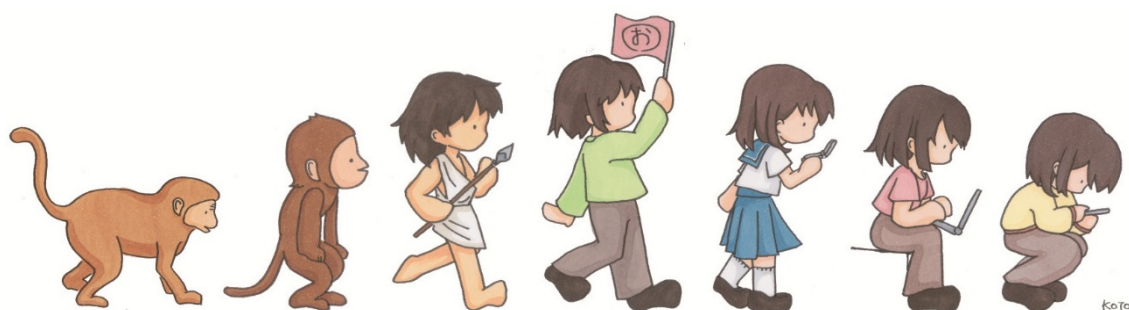
マンダース科のミーアキャットは仲間の食事中などには1匹が背伸びするように立ち上がって周囲を警戒している。この立ち上がるのは朝、太陽が昇った時にもするようで、夜間に冷えた身体、特にお腹を温める目的があるのだそうだが、警戒のために立ち上がるという行動をとるのは間違いない。立ち上がるのは、そもそも身体が小さいので監視のために遠くを見渡す必要からの行為に他ならない。彼らにとって状況監視は生存に繋がる重要案件なのである。

下に示したイラストは著者の秘書だった方の姪御さんに書いてもらった人類の進化を示したものである。4足歩行のサルから2足歩行ができるようになり、2足歩行に習熟すると尻尾によるバランスが不要になり、背筋も伸びて遠くを見渡せるようになる。遠くが見渡せるとなれば、危険を予め検知し、避難行動が取れることを意味する。適切な事前の避難行動が取れば、緊急避難の要がなくなり、サルのように木登りが得意でなくてもいいし、また手も自由に使えることから、考え、行動し、必要に応じて道具を作り出す現在の人間になってきた。ところがゲーム機や携帯電話の出現が人をして液晶画面に集中させるようになり、それがさらにスマホの時代になって何でも情報はスマホで得られる状況になると、人はスマホの画面だけにしか意識を集中させなくなってきた。それと共に視野が狭くなり、勝てて加えてイヤホンが耳をふさぎ、当人に接した外部の環境に全く無頓着な事態を生んでいる。駅などで歩きスマホに対する警告注意が為されてるのはこのためである。人は自ら考案し製造した道具によって、動物として

基本的に持っているはずの能力や感覚さえも失いつつあるのではないかと危惧する。

聴講学生120人相手の講義中に当日の朝刊を読んだものの数を調べたら、0であった。そこでスマホでもテレビでもいいからニュースを見たかどうか訊ねたら、5~6人しかいなかった。長時間をスマホに費やしている若者たちには、液晶画面上に出現するほぼ垂れ流し状態の情報が正しいか、合理的かどうかなどにはほぼ無頓着に信用し、それがいつの間にか彼らの意見になってしまうことが多いのではないか。ましてや面白くもない国内国際情勢などのニュースにはほとんどの学生が無関心なのである。米国大統領もシリア情勢も、ましてや日本経済も彼らの関心を引き起こす材料にはならないのである。

若者たちは、意識的あるいは無意識に役に立たない「データの洪水」という五里霧中に自らを追込んで、視界不良状態にいるように思えてならない。かつての英国の宰相マーガレット・サッチャーが使ったことで著名な“Watch your thoughts, for they become words. Watch your words, for they become actions...”（考えが言葉になり、言葉が行動になり... と続く。原著者は諸説があり不明）に相反して、自ら考えることもなくスマホの液晶画面に動かされ、事実の確認、合理性にも無頓着な、世にはまさしくオックスフォード大の出版局の言うとおりの、POST-TRUTHが満ち溢れている。学生の教育を職責とする大学の教員が嘆いてはいけぬのではあるが。



人類の進化の行く末は？（イラストは只木琴音さんによる）